

英語科 第2学年 「道案内」

授業者 太田市立西中学校 伊東 卓也

Micheal Acton

1,本時のねらい

本時では、簡単な道案内を英語で聞いて理解でき、更に相手に簡単な英語で道案内できることをねらいとした。また、視聴覚機器(コンピュータ)を使って、ペアで協力しながら、楽しくコミュニケーション活動に参加することができることもねらいとした。

2,視聴覚機器の位置づけ

(1)映像や画像を提示する道具として

本時の学習では、プロジェクターとコンピュータ(コンピュータソフトは Microsoft PowerPoint) 自作のVTRを組み合わせ利用し、授業を行った。これらを利用することにより、英会話の練習では、より実際に近い場面設定を行うことが出来た。また、映像を流したりして、生徒の視覚に訴えることは、学習意欲を喚起させ、より積極的な学習活動に参加させることも出来た。

(2)コミュニケーション活動を補助する道具として

生徒個々のパソコンに HTML で作られた MAP を表示することにより、生徒の道案内がスムーズに行うことが出来ていた。(例えば、マウスを移動させることにより、道順の確認がスムーズに行っていた。道案内の正解の確認が建物をクリックすることで瞬時に確認できた。など)



(3)授業の結果を記録する道具として

本時の道案内の会話の中で、使用したスキ

ットをどんどんワープロソフトで追加記録していった。

3,授業の概要

視聴覚機器として利用したものは、パソコン、ビデオカメラ、プロジェクター、VTR などである。



授業では、導入部で、建築物の語句の確認を、プロジェクターとコンピュータ(コンピュータソフトは Microsoft PowerPoint) を組み合わせて利用し行った。

スクリーン上に建築物の映像を映し、生徒に答えさせ、映像に該当する英単語をタイミング良く表示し、AET が読み、発音の確認をしていった。

活動1の場面では、まず、VTR で映し出された外国人2人の道案内の会話を見た。その後、HTML で作られた MAP を生徒個々のパソコンに表示し、VTR の外国人が道案内された場所がどこなのか聞き取り、案内された場所をクリックして、自分の考えが正しいかどうか確認することを行った。

活動2の場面では、生徒ペアで異なった MAP(Microsoft Word で作成)をパソコンに表示し、お互いに質問しながら道案内を行っていった。

まとめの場面では、生徒が本時の授業で使った表現をパソコン(Microsoft Word を使用)に各自保存し、記録していった。